連載

★学校運動部活動の地域展開に取り組むクラブ★

NPO法人かわまたスポーツクラブ
福島県伊達郡川俣町

学校運動部活動をめぐっては、少子化による生徒の減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力を持つ教員の不足等により、生徒のニーズに応じた部活動自体が成り立たなくなる現状があります。

文部科学省では、令和8(2026)年度から令和10(2028)年度までを「改革実行期間(前期)」と位置づけ、休日の部活動について、合同部活動や部活動指導員の配置により地域と連携することや、学校外の多様な地域団体が主体となる地域クラブ活動へ移行することについて、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現をめざすよう各自治体に求めており、総合型地域スポーツクラブにおいても学校運動部活動との連携が期待されています。

そこで今回は、学校運動部活動の地域展開に取り組むクラブの取り組みを紹介します。

1 クラブの理念と特徴

自然豊かな絹のまちでの活動

福島県伊達郡の川俣町は、県都・福島市から車で約30分、里山に囲まれた人口約1万人の小さな町です。面積は約128平方kmで、自然が身近にある落ち着いた環境が特徴です。古くから絹織物の産地として発展し、今も川俣シルクや地鶏の川俣シャモなど、全国に誇れる特産品があります。東日本大震災と原発事故の影響を受けながらも、復興と少子高齢化への対応に取り組み、地域資源を生かした新しいまちづくりを進めています。

スポーツを通したコミュニティづくり

かわまたスポーツクラブ(以下、当クラブ)の概要を紹介します。

当クラブは、平成21(2009)年に設立、平成27(2015)年に法人格を取得した総合型地域スポーツクラブで、町内を活動エリアとし、子どもから大人まで幅広い世代が参加しています。

クラブの理念は「ひとり、いちスポーツを合言葉に、いつでも、どこでも、だれとでも参加できるスポーツ環境を構築し、スポーツ活動を通して地域のコミュニティづくりを目指すものである」としています。種目としては、ヨガ、ボッチャ、グラウンドゴルフなど複数のスポーツ・運動プログラムを展開し、年間を通じて継続的な活動を行っています。令和7(2025)年度は、町委託事業15件、事業開催数194回、累計参加人数1,600人となりました。

クラブの運営は、理事会・事務局を中心としながら、指導者、保護者、地域住民、学校関係者など、多様なメンバーで支えられています。財源は、会費収入に加えて、行政からの委託料・各種事業収入などを確保している状況です。

こうしたなかで、当クラブは、早い段階から学校との連携や地域の子どものスポーツ環境づくりに取り組んできました。その蓄積が、現在進んでいる部活動の地域移行においても、大きな土台となっています。また、令和8(2026)年4月制定の川俣町過疎地域持続的発展計画に「スポーツの振興」で示されている通り、地域スポーツの中核的な組織でもあります。

2 部活動地域展開への挑戦

地域展開を取り巻く背景と課題

総合型地域スポーツクラブと部活動の地域展開を取り巻く背景について、簡単に整理します。これまで、子どもたちがスポーツに継続的に関わる場として、学校の運動部活動が大きな役割を担ってきました。しかし、少子化の進行や教員の働き方改革、平日・休日の長時間指導といった課題が顕在化し、『学校だけで支える』仕組みには限界があることがはっきりしてきました。

川俣町では、部活動の地域展開に伴い、以下の課題・問題について取り組みました。

①深刻な少子化に伴う部活動の持続性に課題
②教員の業務負担の増加(競技経験のない競技指導者、休日の引率等)
③生徒の価値観の多様性に応じた活動の必要性

これらの課題を解決するべき川俣町の方針として、「令和5(2023)年度から一部の休日運動部活動を地域へ移行」「文化部および移行できない部活動については移行準備が整い次第移行」「将来的に生徒のニーズに合った活動機会の確保」を掲げました。

委託事業としての橋渡し役

川俣町中学校部活動の地域展開に伴う担い手として、川俣町教育委員会からの委託契約に基づいて当クラブが運営しております。学校が直接運営はせず、地域クラブの場を活用して生徒が活動できるよう、橋渡し役を担っています。

生徒と保護者に対して、活動内容や日程の情報提供、会員登録の受け付け、指導者からの連絡調整などを行います。生徒はクラブの会員として活動に参加し、保護者は連絡を受け取りつつ、必要に応じてクラブとやり取りをします。 当クラブが取り扱う主な活動は以下の8項目になります。

①指導者の確保、②参加者募集、③スポーツ安全保険加入、④従事者時間管理、⑤業務報告書の作成、⑥報酬の支払、⑦安全管理、⑧地域クラブ活動指導者調整。このうち、①～⑦の活動は当クラブで直接行い、⑧に関しては各団体にお任せしております。


地域クラブ活動フェンシング競技。スポーツ少年団と合同練習風景


地域クラブ活動陸上競技の練習風景


地域クラブ活動野球競技の練習試合風景

指導者の確保と行政との連携

指導者の確保について、地域のスポーツ団体関係者や川俣町スポーツ推進委員を対象に指導者協力依頼を実施しており、指導者をどう集めていくかという点が課題となっています。指導者が集まりにくい要因としては、資格取得や安全確保、保護者対応、連絡業務など「目に見えない負担」が多いことや、活動の実態が見えにくいことが挙げられます。

そこで当クラブでは、これらの課題への対応策として、業務の役割を分担して指導者の負担軽減を図るとともに、謝金の考え方を明確にしています。また、外部の資格取得にはこだわらず、当クラブが主催する研修会の受講を指導の必須条件とすることで参加のハードルを下げています。そのうえで、競技別の指導者懇談会を実施し、地域の子どもたちの現状やクラブがめざす方向を共有しながら、「自分にできる関わり方は何か」を一緒に考えていただく場としています。単にお願いするだけでなく、地域クラブ活動が子どもの成長と地域づくりを支える取り組みであるという「活動の意義」を丁寧に伝え、地域全体で子どもを支える意識を持ってもらうことを大切にしています。

ここで、学校や行政とどのように連携してきたのか、ポイントを二つ紹介します。

一つ目は、クラブ事業と部活動との接続です。例えば〇〇競技では、平日は学校の部活動、休日は当クラブ主催の地域クラブとして活動し、指導者や練習場所を共有する仕組みを試行してきました。これにより、指導の継続性を保ちながら、学校外の多様な仲間と関わる機会も得られています。

二つ目は、行政との役割分担の明確化です。クラブ単独では対応が難しい指導者の謝金や保険、施設使用料などについては教育委員会と協議を重ね、財政的な支援の枠組みを整えてきました。しかし、行政への見積書提出にあたっては前例がないため、継続的な財源確保や費用分担の調整、保護者負担への配慮、活動の質を保つことなどについて、説明責任を果たしながら理解を得ることに多くの時間と労力を要しました。

当クラブはそのうえで、事業の企画運営や現場のコーディネートなど、民間ならではの機動力を発揮するよう心がけています。



指導者に対して、当クラブが主催する指導者研修会の受講を生徒を指導するための必須条件としています



コオーディネーショントレーニングによる生徒・指導者・合同研修会風景

3 地域に広がる協働の効果

多様な世代の参加と交流

行政と連携したことで、子どもから高齢者まで一貫したスポーツ・健康づくりの機会が広がり、参加者同士のつながりも深まりました。また、行政の支援を活用することでクラブの運営が安定し、新しい事業にも挑戦しやすくなりました。

こうした取り組みを通して、いくつかの成果が見えてきました。

第一に、クラブ会員の増加や種目の多様化が進み、子どもから高齢者まで参加しやすい環境が整ってきました。第二に、学校現場との連携を通じて子どもたちのスポーツ機会が広がり、教員の負担軽減にも一定の貢献が見られました。第三に、行政や地域団体との協働が進んだことで、スポーツをきっかけとした住民同士のつながりが強まり、地域コミュニティづくりへの手応えが生まれてきました。

地域を結ぶプラットフォームへ

これらの成果は、クラブの地盤が少しずつ固まり、地域にとって欠かせない存在として認識され始めたことを示していると考えています。町や教育委員会と連携し、学校施設の開放や部活動の地域展開を進めることで、当クラブが単なるスポーツの場ではなく、学校・行政・地域を結ぶプラットフォームとして機能することをめざしています。

解決すべき課題も少なくありません。具体的には、中学校部活動の地域展開の受け皿づくりといった学校との連携課題をはじめ、学校・保護者・地域団体・行政をつなぐ連絡機能を強化する地域貢献課題、そして指導者や運営人材を育成する人材確保課題などが挙げられます。

だからこそ、それぞれが単独で頑張るのではなく、お互いの強みと弱みを補い合う「協働の仕組み」をつくっていくことが重要と考えます。部活動の地域展開が本格的に進む今こそ、総合型地域スポーツクラブを地域の共通資源として位置づけ、地域ぐるみで子どもの成長と健康を支える体制に挑戦していきたいと考えます。

当クラブの実践はまだ途上にありますが、地域の教育や福祉、まちづくりとつながる中核的な存在になりうると確信しています。



年１回実施する救命講習会の風景

4 持続可能なクラブ運営をめざして

日常的なスポーツ環境の提供

当クラブは、町や学校、関係団体との協働のもと、子どもたちがこれまでの部活動に近い環境でスポーツを続けられるよう、地域クラブとして種目別の教室やチームを運営してきました。単に練習の場を提供するだけでなく、活動時間や負担の見直し、保護者や地域の方々の参画を促しながら、無理のない「する」「ささえる」の仕組みづくりを進めています。

また、子どもだけでなく、大人や高齢者も一緒にスポーツを楽しみ、支えることで、世代を超えたつながりが生まれ、地域全体のコミュニティづくりにもつながってきました。こうした日常的な活動の延長線上に部活動の地域展開を位置づけていることが、私たちのクラブの大きな特徴です。

今後の課題とリスク管理

今後は、認証制度の趣旨を踏まえながら、学校との連携協定の整理や指導者の確保・育成、財源の安定化など、地域として乗り越えるべき課題にも町や関係機関とともに取り組んでいきたいと考えています。

一方で、行政の年度や制度に合わせた事業運営になりがちで、クラブ本来の自主性とのバランスが常に問われます。担当者の異動などに左右されない継続的なパートナーシップの仕組みづくりや、世代や地域による参加の偏り、地域展開に伴う責任やリスクの受け止め方など、まだまだ検討すべき点が多くあります。クラブの理念を住民に丁寧に伝えていく広報も大きな課題です。

安定した運営のために、会費に加え多様な財源を組み合わせて基盤を確保することは重要ですが、サービス提供に伴う収入は消費税等の課税対象となり、適切な区分経理と納税義務を負う可能性があります。

また、財政基盤の強化は、事務処理に費やす時間の増加や運営上のリスクも伴います。単に収入を増やすことのみを目的とするのではなく、税務・会計・保険・コンプライアンスを含めたリスクマネジメントの視点から、無理のない事業規模や運営方法を検討し、持続可能なクラブ運営を図ることが重要と考えています。

これまでの実践を土台にしながら、「スポーツの力で元気なまちづくり」を実現する地域のプラットフォームとなれるよう、地盤強化の取り組みを続けていきたいと思います。

NPO法人かわまたスポーツクラブ 事務局長　氏家美代子

クラブプロフィール

設立年月日	平成21（2009）年4月1日（平成27年3月31日 法人登記）
所在地	福島県伊達郡川俣町大字東福沢字万所内山2-3
運営	会員数：201名（令和8年4月現在）、予算規模32,000,000円（令和8年度）
特徴	地域の人が主体となって、子どもから大人まで幅広く参加できるクラブです。毎月の会報誌を川俣町全戸に配布実施し、教室・イベントを案内することで、地域住民が「いつでも」「どこでも」「だれでも」参加できるよう活動をしています。また、学校部活動地域展開を支える運営団体として認証され、地域ぐるみで支える「部活動の地域展開タイプ」認証クラブの先行事例として位置づけされています。
連絡先	〒960-1405福島県伊達郡川俣町大字東福沢字万所内山2-3 TEL：080-6056-1777　FAX：024-565-3932 E-mail：info@kawamata-sport.com